

## 野菜工場運営

「生き物を育てる仕事にはやりがいを感じます」。レタスなど数種の葉物野菜を育てる群馬県高崎市の野菜工場。知的障害のある男性（42）が笑顔で話した。運営するのは同市のNPO法人「ソーシャルハウス」理事長の滝沢啓さん（44）。電子部品工場を改修して障害者の働く場とし、6月から生産を始めた。地元スーパーなどに出荷する。



## 障害者の就労を支援

滝沢さんは発電設備の制御盤などの製造会社社長。2012年、水耕栽培で養分を循環させ、日光代わりのライト照射で効率よく野菜を育てる室内向け装置を開発した。設置した全国約30事業所の中に障害者の支援施設があった。かねて障害者雇用に関心を寄せていた滝沢さん。施設担当者と話すうち、「室内で成長過程を観察しながらの野菜栽培は楽しく取り組めるのでは」と思い立つ。13年にNPO法人を設立、指導スタッフ雇用など準備を進めた。約270平方メートルの工場での作業は種まきから苗の植え付け、収穫、包装と幅広い。「自分で考えて行動することがやりがいを生む」。就労する障害者は3人だが、1年以内に20人に増やすつもりだ。